

平成30年度 総務生活委員会行政視察報告

1 タイムライン防災 (三重県紀宝町)

発災前から予想可能な風水害である台風に対し、運用時間、運用主体、行動項目を時系列で整理したもので、事前の対策によって被害を最小限にとどめることを目的としている。紀宝町は、三重県最南端に位置し、熊野川を挟んで和歌山県新宮市に隣接する。平成23年台風12号による紀伊半島代水害によって熊野川とその支流が氾濫し、流域の広大な地域が浸水した。輪中堤すら決壊する被害から、教訓としてこの計画が策定された。上昇した水位の高さは想像を絶する。県とも連携して行っている。



輪中堤の説明を聞く

2 移住・定住促進事業 (和歌山県田辺市)

合併によって和歌山県最大の面積となっているが、広大な中山間地を抱え、過疎が進んでいる。山村林業課が移住担当職員を配置し、移住相談の総合窓口となっている。合併前の旧町村を移住推進地域とし、中山間地の短期滞在施設や空き家の紹介など幅広く取り組み、移住希望者に対し、物心両面で幅広い支援を行っている。移住担当員の負担は大きく、一定の知識・経験が必要と思われるが、大変大きな役割を果たしていることがうかがえる。

田辺市は熊野古道の入り口として、市内いたるところに外国人観光客が多いことにも驚

かされた。海に面した市街地には、鬪鶏神社、南方熊楠顕彰館など歴史の重みを感じさせる街並みが広がっていた。



3 シティセールス基本方針 (和歌山県橋本市)

橋本市は、大阪・京都・和歌山・奈良の各都市部への通勤が可能なところに位置している。人口減少を食い止めるため、当市の認知度を高め、移住定住を促進しようとする取り組みである。通勤圏としての地の利、子育て環境、歴史・名勝、地場産業などの当市の特徴を、多様な情報発信によって多様な対象者に伝えようと工夫している。

和泉山脈と紀伊山地にはさまれた、紀の川とその河岸段丘の町であり、暮らしやすい地形・気候である。へら竿やパイル織物、柿などの特産品も豊かにあり、そうしたものを最大限活かそうとしていることがうかがえた。

